

社会調査士認定規則

第1条 本協会は、高等教育機関における社会調査教育の向上を図り、社会調査知識と技能を有する人材育成を目的として、大学の学部教育において一定の要件をみたした社会調査の科目を履修した者に社会調査士の資格を認定する。

第2条 大学、大学院等の教育組織(以下「教育組織」と呼ぶ)が、「社会調査士資格の標準カリキュラム」に対応する授業科目の認定を受けるためには、授業内容を説明するものなど必要な資料を添えて「社会調査士科目認定申請書」を提出し、承認を得なければならない。

2 前項における申請書の提出は、年度ごとに行うものとする。

3 必修科目は、別表1「社会調査士資格の標準カリキュラム」による。

4 年度途中において授業科目等の申請内容に変更があるときは、その旨を協会宛に届け出て、承認を得なければならない。

第3条 前条の教育組織は、あらかじめ「連絡責任者」を定め、「社会調査士連絡責任者申請書」を協会に提出し、承認を得るものとする。

2 連絡責任者は、当該教育組織及び学生から本協会への各種連絡をとりまとめる任を負うものとする。

3 連絡責任者は、当該教育組織に所属する常勤の教員でなければならない。

4 連絡責任者を変更するときは、「社会調査士連絡責任者変更届」を提出し、承認を得なければならない。

第4条 社会調査士の資格を取得しようとする者は、所属する教育組織において第2条に定める授業科目を履修しなければならない。

第5条 教育組織において所定の科目を履修し、社会調査士の資格認定を申請する者は、連絡責任者を通じて、以下の書類に認定審査手数料を添えて本協会に提出しなければならない。

- (1) 認定申請書
- (2) 卒業証明書または修士修了証明書
- (3) 資格認定科目に関わる成績証明書

2 資格が認定された者に対しては、「社会調査士認定証」を交付する。

第6条 (キャンディデイト申請) 前条の規定にかかわらず、在学中の学生は、連絡責任者を通じて以下の書類に認定審査手数料を添えて、社会調査士(キャンディデイト)認定を申請することができる。

- (1) 認定申請書
- (2) 前年度までの成績証明書および当該年度の履修科目証明書ないしそれに代わるもの

2 在学中に申請し、承認された者には「社会調査士(キャンディデイト)証明書」を発行し、卒業後に卒業証明書及び成績証明書の提出を待って「社会調査士認定証」を交付する。

第7条 第2条に定める社会調査士資格の標準カリキュラムの変更は、理事会の議を経るものとする。

第8条 本規則の改廃は、理事会の議を経るものとする。

付則

- 1 本規則は、旧社会調査士資格認定機構における社会調査士資格認定の慣習的規則に基づき、制定するものである。
- 2 2009年5月16日制定。
- 3 2015年11月23日改正。
- 4 2017年11月18日改正。

別表1 社会調査士資格の標準カリキュラム

科目	授業時間数
a 社会調査の基本的事項に関する科目	90分×15回相当
b 調査設計と実施方法に関する科目	90分×15回相当
c 基本的な資料とデータの分析に関する科目	90分×15回相当
d 社会調査に必要な統計学に関する科目	90分×15回相当
e 多変量解析の方法に関する科目	90分×15回相当
f 質的な調査と分析の方法に関する科目	90分×15回相当
g 社会調査を実際に経験し学習する科目	90分×30回相当

※eとfは、どちらかを選択

内容

- a 社会調査の基本的事項に関する科目 90分×15回相当
 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を含む。
- b 調査設計と実施方法に関する科目 90分×15回相当
 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する科目。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法（全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差など）、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成）など。
- c 基本的な資料とデータの分析に関する科目 90分×15回相当
 公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識に関する科目。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方。相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念などを含む。
- d 社会調査に必要な統計学に関する科目 90分×15回相当
 統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識に関する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎など。
- e 多変量解析の方法に関する科目 90分×15回相当
 社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する科目。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（たとえば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、ロジスティック回帰分析、因子分析、数量化理論、マルチレベル分析など）の中から若干のものをとりあげる。

f 質的な調査と分析の方法に関する科目

90分×15回相当

さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する科目。参与観察法、フィールドワーク、インタビュー等の質的調査の方法、および、ライフストーリー分析、会話分析、ドキュメント分析、内容分析、グラウンデッドセオリー、ビジュアルデータ分析等の質的データの分析法（質的データ分析ソフトの使用方法を含む）など。

g 社会調査を実際に経験し学習する科目

90分×30回相当

調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程について、体験を通じて学習する科目で、中心となるものは量的調査あるいは質的調査のどちらでもよい。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接等データ収集）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成。また、実際にアプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習、もしくは、質的データの分析ないし事例研究を行う実習を含む。